

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産費 項：農業費 目：農山村振興費

事業名【新】野生鳥獣個体数管理事業費補助金（ニホンザル分）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農村振興課 鳥獣害対策室 鳥獣害対策係

電話番号：058-272-1111(内4172)

E-mail：c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費

6,060 千円 (前年度予算額：

0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	6,060	0	0	0	0	0	6,060	0	0
決定額	6,060	0	0	0	0	0	6,060	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- 生物多様性国家戦略に示される4つの危機のうち、第2の危機である自然に対する人間の働きかけの減少等により、農林業被害の拡大や生態系の錯乱につながっている現状がある。
- ニホンザルによる農作物被害等を軽減するためには、生息状況を把握し捕獲活動による個体数管理が必須の状況となっている。

(2) 事業内容

ニホンザルによる農林水産業被害の軽減及び生態系の保全を図るため、以下の事業を実施する。

◇ニホンザルの捕獲推進事業

- 第二種特定鳥獣管理計画に基づく個体数調整を目的としたニホンザルの捕獲に必要な経費を補助する。

(3) 県負担・補助率の考え方

- 県内のニホンザルによる農業被害は全体の約2割を占めており、その他として生活環境への影響や人身被害の発生も懸念されている。
- こうした被害や影響は、生息数が増加し、生息域が拡大したことが一因とされており県では、令和4年度に第二種特定鳥獣管理計画（ニホンザル）を策定し、加害レベル4以上のサルの生息数を令和9年度末までに半減させることで、県全体の加害レベルを低下させることとしている。
- 清流の国ぎふづくり推進のためには、県として積極的に捕獲を推進する必要性があり、県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	6,060	○ニホンザルの捕獲推進事業
合計	6,060	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 第二種特定鳥獣管理計画（ニホンザル） 2023(R5)年4月1日～2028(R10)年3月31日

(2) 国・他県の状況

- 28府県で第二種特定鳥獣管理計画（ニホンザル）策定（R4.11現在）

(3) 後年度の財政負担

- 第二種特定鳥獣管理計画（ニホンザル）に基づき実施が必要である。

(4) 事業主体及びその妥当性

- 第二種特定鳥獣管理計画（ニホンザル）に基づき実施が必要である。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	野生鳥獣個体数管理事業費補助金（ニホンザル）
補助事業者（団体）	市町村 （理由） 捕獲を行う団体である
補助事業の概要	（目的） 野生鳥獣による農林業や生活環境への被害の軽減及び生態系の保全 （内容） ニホンザルの捕獲等対策の推進
補助率・補助単価等	定額・定率・その他（例：人件費相当額） （内容） 捕獲報償費（ニホンザル）15千円/頭 捕獲促進費 200千円/市町村 （理由） 捕獲等に係る必要経費とする
補助効果	対象獣種の捕獲推進
終期の設定	終期9年度 （理由） 第二種特定鳥獣管理計画（ニホンザル）の目標年

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>県全体のニホンザルの加害レベルを低下させるため、年間1588頭のニホンザルを捕獲できる体制を整備する</p>
--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R4)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
①ニホンザルの年間捕獲頭数（狩猟）	1,264	1,264	1,314	1,588	1,588	/
②						

補助金交付実績 (単位：千円)	R2年度	R3年度	R4年度

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>
令和3年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>
令和4年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価)	
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価)	
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ニホンザルによる農作物被害は依然として高い水準で発生している。このため、捕獲圧を高めるための継続的な施策の実施が必要である。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ニホンザルによる農林業への被害は大きく、本事業は各市町村、農林業関係者並びに地域住民からの要望も多い。</p>
